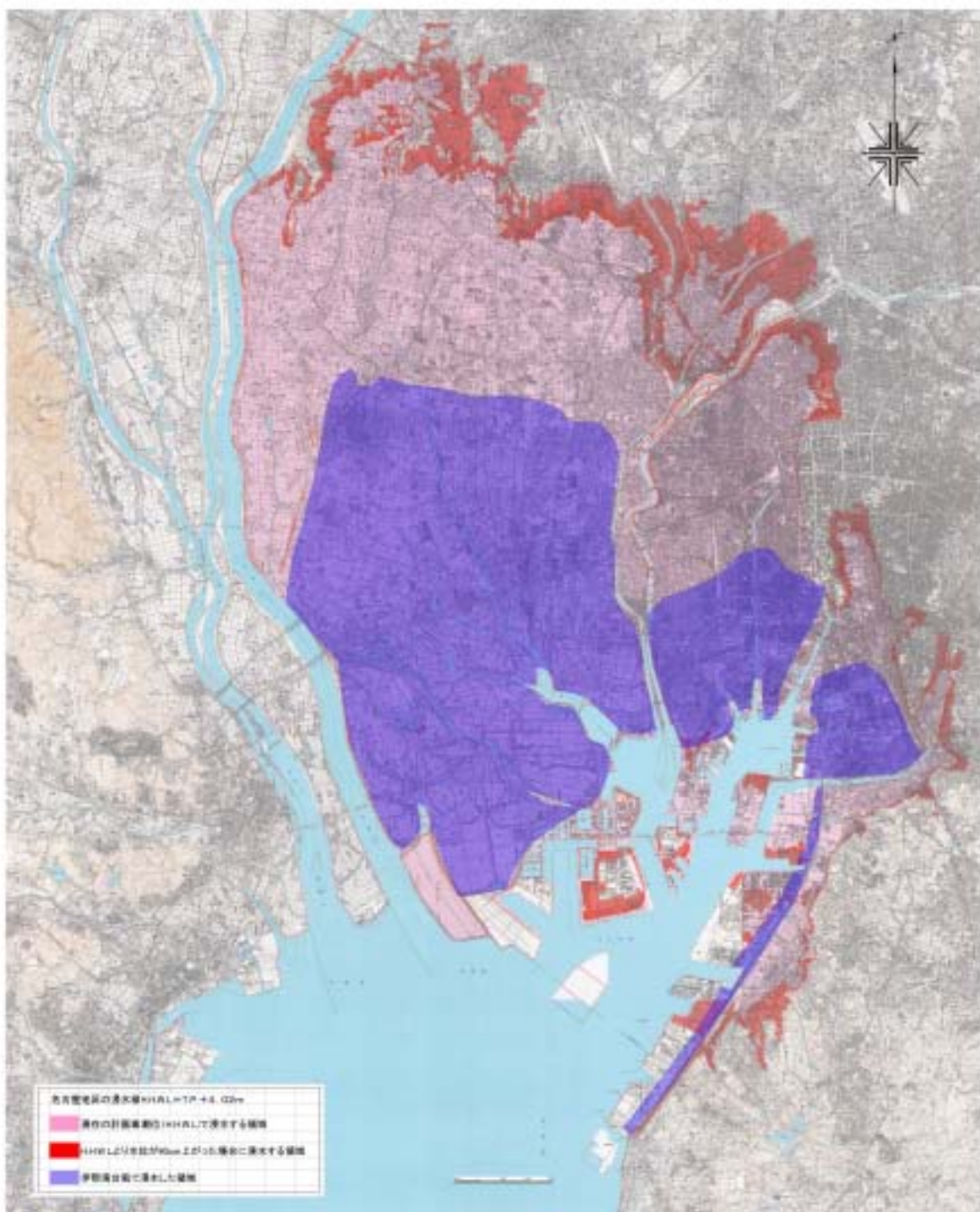
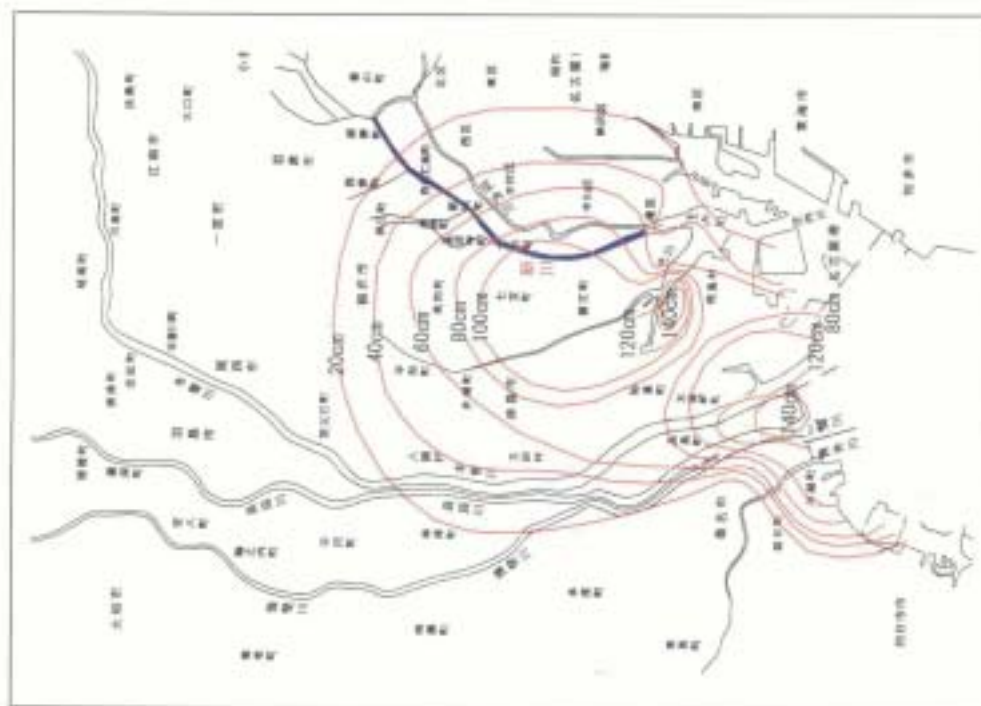


伊勢湾台風による浸水領域、現在の計画高潮位（H.H.W.L）で浸水する領域、H.H.W.Lより水位が90cm上がった場合に浸水する領域を重ねて示した。伊勢湾台風による浸水領域に対し、現在の計画高潮位（H.H.W.L）で浸水する領域の方がかなり広いが（面積比で約2倍余り）、広域的な地盤沈下量を考慮する必要がある（広域地盤沈下の累積沈下量コンター図参照）。



名古屋地区の浸水領域図



昭和30年～平成10年(37年間)



昭和36年～昭和55年(19年間)

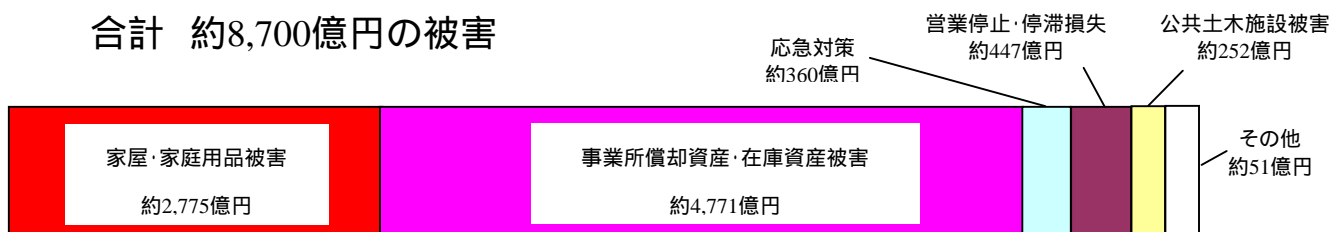
出典：東海三県地盤沈下調査測量結果 H9

広域地盤沈下の累積沈下量コンター図

2) 東海水害による被害状況



合計 約8,700億円の被害



平成12年東海豪雨及び台風14号(9.8～9.18)による被害額(愛知県)

東海豪雨は、2000年9月11～12日にかけて名古屋市を中心とした東海地方が台風14号の影響により活発化した停滞前線による集中的な豪雨にみまわれた。2日間の積算降水量は多いところで600mm前後に達し、名古屋市周辺で多数の浸水被害が生じた。1時間降水量は名古屋市で最大93mm(11日19時)東海で114mm(同)であった。

資料：国土交通省資料 等

東海水害による名古屋市周辺の浸水状況図